身近な水環境を調べよう！

－「第 12 回 身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い －

全国水環境マップ実行委員会　　実行委員長　小倉　紀雄
長野支部責任実行委員　　　　　　　　　　沖野　外輝夫

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと国土交通省・（財）河川環境管理財団が連携し、実施しています。

本調査は、「パックテスト」という簡単な調査キット(無償で配布)を用いて、全国で一斉に調査を行い、その調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が他地域と比較して良くわかります。

また、調査を 10 年 20 年と継続することで　この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。 子供から大人まで大勢の皆さまの参加申し込みをお待ちしています。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(http://www.japan-mizumap.org/)や国土交通省河川局のホームページで公表されています。

調査日時　**2015 年 6 月 7 日（日）**※世界環境デー（環境の日）に近い日曜日
測定項目　　気温、水温、ＣＯＤ、その他(任意)
測定方法　　取扱説明書に基づき、調査キットにて測定
（調査キットは参加申込者に毎年 5 月頃事前に配布予定）

参加ご希望の方は　上記ホームページから参加申込用紙をダウンロードの上
2015 年 3 月 10 日までに E-mail または FAX で申し込みができます。

全国一斉調査　　お申し込み先
FAX ： 042-327-3169 E-mail ： mizutomidoriken@ybb.ne.jp

なお、ご不明の点は下記の信州水環境マップ・ネットワーク事務局宛てにご一報ください。また、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。

信州水環境マップ・ネットワーク事務局　沼田　　清
〒389-0206 長野県御代田町御代田 2531-41-3-302
電話　0267-32-8608　携帯　090-9801-6671　E-mail ： ecolabo@f4.dion.ne.jp
Web：http://shinsyu-mizumap.midorinooka.net/

2014 年　第11回身近な水環境の全国一斉調査	
長野県版マップ 調査地点 287ポイント	
番号	調査グループ名
1	法政大学水文地理学研究室
2	千曲川水生昆虫研究会
3	諏訪湖クラブ
4	戸隠地質化石博物館
5	飯水自然調査研究委員会
6	軽井沢水楽会
7	湯川　水の会
8	エコラボ クラブ
9	長野市水環境研究サークル
10	グリーンヒル友の会
11	佐久市切原小学校六年生「水調査隊 Z」
12	ながの環境パートナーシップ会議・水環境チーム
13	NPO法人　みどりの市民
14	ほっとスペース
15	天竜川総合学習館かわらんべ
16	信州大学松本キャンパス環境ISO学生委員会
17	菅平ナチュラリストの会
18	NPO法人川の自然と文化研究所
19	矢作川環境技術研究会
20	他に個人参加は3名

【2014年度全国水質一斉調査講評】

2014 年度全国一斉水質調査に参加された皆様、そして新たに仲間に加わられた皆様、ご苦労様でした。昨年度と同様に長野県下の測定地点の結果を一つの地図にまとめました。自身が測った地点の結果を他の地点と比較し、自分の身の回りの水環境に関心を持ち、その状況を判断する参考として下さい。

地図を見るとお分かりのように、今年、長野県下で測定された 287 地点中の 52%が水質良好でした。これは昨年の測定結果 48%に比べるとやや良好ですが、天候の差を考えればほぼ同じと考えて良いでしょう。しかし、水質要注意の赤いマークは今年度も長野市周辺に集中しているのが気になります。一方、以前は赤マーク、黄マークが多く見られた諏訪湖流入河川は昨年同様に改善傾向が続いています。諏訪湖流域市町村に住む人たちにとっては朗報ですが、昨年よりも悪化している河川もあり、なお一層の努力を期待しています。これからも長野県の水環境をさらに良好に維持していくためにも日常の生活での気配りが重要であることを地図の中から読み取って下さい。今年も、長野県下の千曲川水系、天竜川水系、木曽川水系、犀川水系、さらには裾花川など、支流の測定地点が増え、姫川水系を含めて長野県域全体を比べることができるようになりました。

今年の観測日前は長野県下も天候不順で、地域的に降雨量の極端な違いがありました。測定時の水質は測定前の天候や上流の状況に左右されます。人間活動の盛んな地域では一日の時間帯によってさらに水質が大きく変わります。水質測定の体験を機会にさらに詳しい水質の測定や川との様々な触れあいを心がけてはいかがでしょうか。自分たちが住んでいる環境の状況を自分自身で測ることにより、毎日の生活が身の回りの環境に配慮したものになることを期待しています。今年は全国一斉に水質調査ができなかった地域もありましたが、事務局を中心とする関係者と各地域の参加者の誠意と努力によって調査を継続することができました。来年度にはさらに多くの地域で測定仲間が増えるよう皆様のさらなるご協力をお願いします。（沖野外輝夫記）